

中長期的な観点からの宇宙輸送システムの在り方に係る総合的検討
(長期ビジョン) の具体的な検討の進め方等

平成 25 年 9 月 2 日

1. 検討の進め方

- (1) 宇宙輸送システム長期ビジョンワーキンググループ会合を開催（内閣府宇宙戦略室による調査）。
- (2) 同ワーキンググループは、宇宙輸送システムの長期ビジョンの素案を作成。その素案を基に部会で審議。

2. ワーキンググループの検討状況

- (1) 第 1 回ワーキンググループ会合を平成 25 年 8 月 23 日に開催し、長期ビジョンに関する考え方について議論を実施。
- (2) 第 1 回会合における主な意見は以下の通り。
 - 宇宙利用が活発に行われている将来の姿を想定し、それに必要となる宇宙輸送システムを技術的側面だけでなく経済的側面を踏まえて検討することが重要。
 - 将来宇宙輸送システムの需要は、二地点間高速輸送、商業宇宙ステーション、衛星修理・補給ビジネス、宇宙太陽光発電、宇宙資源探査、宇宙旅行等のためが考えられる。
 - 高速輸送能力の保有は潜在的な安全保障・外交力であり、経済性の議論ではなく、戦略的な通商政策の視点が必要。
 - 宇宙輸送のコストを今より大幅に低下させれば、宇宙利用の市場が大きく拡大する可能性がある。それには航空機のような高頻度、大量輸送のシステムとする必要があり、そのための鍵は輸送システムの再使用化にある。
 - 将来宇宙輸送システムの潜在需要を考えると、航空業界やエネルギー業界等、宇宙以外の市場を視野に入れて議論すべき。
 - 水素燃料の安全技術やカーボンナノチューブ構造といった素材研究など、宇宙以外の民生分野で技術が進歩していることもあるため、他分野との連携が重要。
 - 今後、技術的、経済的な観点から二国間あるいは多国間の共同開発が更に重要になる。
- (3) 第 2 回ワーキンググループ会合の開催は 9 月下旬目途。

以上

(参考)

宇宙輸送システム長期ビジョンワーキンググループ 名簿

| | | |
|----|-------|---|
| 主査 | 白坂 成功 | 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 |
| | 渥美 正博 | 三菱重工業株式会社 宇宙事業部宇宙システム技術部 部長 |
| | 稲谷 芳文 | (独)宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 副所長 |
| | 井元隆行 | (独)宇宙航空研究開発機構 宇宙輸送ミッション本部 イプシロンロケットプロジェクトチーム サブマネージャ |
| | 坂田 公夫 | 航空総合技術政策フォーラム 代表幹事 (独)宇宙航空研究開発機構 元理事 |
| | 牧野 隆 | 株式会社IHI 航空宇宙事業本部 宇宙開発事業推進部長 |

(五十音順、敬称略)